

事業報告書

事業名	チェーンソー入門講座実践編―立木の伐倒―
実施日	平成 30 年 10 月 13 日(土)
実施場所	木更津市笹子（「木更津里山の会」活動地内）
主催	特定非営利活動法人ちば里山センター
実施内容	<p>1. フィールドの状況：今回の会場は植林後 10 数年の杉林であり、枝打等の手入れが行われ整備されたフィールドであった。胸高直径は10cm～20cm、樹高は7～8mであった。</p> <p>2. 間伐及び造材体験：林家の承認を得て、6本に1本の割合で間伐することとした（100㎡内の樹木数24本を20本に間伐）。参加者は少なくとも1本を伐倒し、枝払い・玉切り(3m)造材までを体験できた。</p> <p>3. 安全確認：実習に先立ち、林業事故の実態等を含む安全取組みに関する講義があり、安全作業を再確認した（別添資料）。また、伐倒作業に当たっては、①伐倒方向の確認 ②退避方向の確認 ③受け口の設定 ④追い口設定(合図)など、確認や合図の徹底の重要性を再認識した。</p> <p style="text-align: center;">受付け・始礼：9時30分 振返り・終礼：15時30分（体調不良・怪我等なし）</p>
参加人数	受講者：7名
講師	千葉県森林組合南部支所 木村正敏氏 きさらづ里山の会 木村会長、柴崎副会長
スタッフ	ちば里山センター 高橋理事(記)



実技が行われた杉林。



講習が終了しにこやかに集合。



座学：「林業従事者が少ないこともあって、林業災害の比率は高い」と木村講師。



準備：燃料は混合ガソリン。機種による構造の違いをよく確かめて一。



選木：樹木密度、曲りや太さなど成長状態等を加味して間伐する木を選ぶ。



伐倒：伐倒木周辺の整備、伐倒方向・退避場所の確認等の手順は、口径の大小にかかわらず同じ。架かり木になったときは、まずはつるの中央のみを残しフェリツグバ(木廻し)で回す。



枝払い：枝払いは、枝の内部応力を見定めながら、チェーンソーの取っ手の握りを適切に変える。移動はバーが反対側にあるときに行う。



玉切り：伐倒木にかかっている力を考慮しつつチェーンソーを操作する。